



## Kinki Webcat から KITOcat へ — 目録サポートチームからの報告 —

目録サポートチーム

春日井泉江、川野 眞樹  
高須賀京子、高橋眞由美

### I. 目録の歴史

近畿病院図書館協議会（病図協）の目録は、会員間の相互利用（ILL）を目的として 1975 年に作成された「病院図書館医療関係雑誌所在目録」から始まる（表 1）。その後、総合目録として 1981 年に「医学雑誌総合目録 欧文編」が、1984 年に和文・国内欧文・華韓編が、1997 年に外国雑誌・国内雑誌編の改訂版が冊子体で発行された<sup>1-3)</sup>。2004 年には CD-ROM 版が発行されたが、ネット社会に合わせ 2006 年に Web 版（Kinki Webcat）を稼働させ、ILL 申込書作成を

兼ねたオンラインシステムとした<sup>4)</sup>。

2011 年 8 月に、システム業者であるサンメディア（2012 年 1 月業務移管によりナレッジワイヤに変更）からのサーバーのクラウド化に伴う保守管理費の大幅な値上げ問題が起こった。そのため、サンメディアのシステムで東海目録 WEB 版（略称：TOMcat）を運用していた東海地区医学図書館協議会と、サンメディアと、病図協とで合同協議を開始した。解決策として、Kinki Webcat と TOMcat を同一システムにするだけでなく、他の図書館ネットワークも参加

表 1 近畿病院図書館協議会発行の現行目録及び総合目録

1975 年	病院図書館医療関係雑誌所在目録 1975 年版
1977 年	病院図書館医療関係雑誌所在目録 (1976・1977 年度受入雑誌欧文雑誌追加版)
1981 年	医学雑誌総合目録 (欧文編)*
1984 年	医学雑誌総合目録 (和文・国内欧文・華韓編)*
1987 年	医学雑誌総合目録 (欧文編) 第 2 版*
1994 年	現行雑誌所在目録 1993 年版
1996 年	現行雑誌所在目録 1996 年版
1998 年	医学雑誌総合目録 (外国雑誌・国内雑誌) 1997 年改訂版*
1998 年	現行雑誌所在目録 1998 年版
1999 年	現行雑誌所在目録 1999 年版
2000 年	現行雑誌所在目録 2000 年版
2001 年	現行雑誌所在目録 2001 年版
2004 年	会員所蔵雑誌目録 2004 CD-ROM 版*
2006 年 8 月～2013 年 3 月	近畿病院図書館協議会所蔵雑誌目録 Web 版 (通称: Kinki Webcat)*
2013 年 4 月～	近畿病院図書館協議会所蔵雑誌目録 Web 版: KITOcat*
*は総合目録	

かすがい みずえ：名古屋記念病院 図書室  
 かわの まき：京都第二赤十字病院 図書室  
 たかすか きょうこ：松山市民病院 図書室  
 たかはし まゆみ：鳥根県立中央病院 図書室

できる総合目録・ILL システムを開発し、管理・運用することが決まった。

病図協と東海地区医学図書館協議会が参加し、2013年4月1日に Medical Library Network : KITOcat (<https://www.melin.jp/>) が本稼働した<sup>5, 6)</sup>。その後、2013年6月11日より福島県医療機関図書室協議会が、2013年7月27日より中国四国九州医学図書室ネットワークが運用を開始し、2014年3月現在、4つのネットワークがKITOcatに参加している。

## II. KITOcat 稼働までの作業

### 1. 合同協議

2011年から2012年にかけて、病図協の目録サポートチームと、東海地区医学図書館協議会の東海目録ワーキンググループと、システム業者とで新所蔵雑誌目録 Web 版作成会議を四回開催した(表2)。第一回会議では、システムの保守管理費問題と存続についての協議、第二回会議では、同一システムへの変更とシステム内容についての協議、第三回会議では、システムのデモ版の確認と調整、第四回会議では、前回会議後のシステム変更点と本稼働までのスケジュール確認を行った。

合同協議で、書誌マスタは TOMcat に基づき NACSIS (<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/>) に準拠、ILL 申込書は Kinki Webcat のレイアウトを取り入れることに決定した。

表2 合同協議記録

第一回会議
2011年11月28日 愛知県がんセンター
出席：近畿3名、東海3名、サンメディア2名
第二回会議
2012年3月28日 愛知県がんセンター
出席：近畿3名、東海3名、ナレッジワイヤ1名
第三回会議
2012年7月7日 京都第二赤十字病院
出席：近畿5名、東海2名、ナレッジワイヤ1名
第四回会議
2012年9月29日 京都第二赤十字病院
出席：近畿3名、東海2名、ナレッジワイヤ1名

### 2. 書誌マスタの整備

それぞれの協議会で作成していた書誌マスタを整備するため、2012年7月～10月に目録サポートチームの4名で、Kinki Webcat と TOMcat の書誌マスタ(約15,000タイトル)のうち、重複書誌および不完全書誌(約300タイトル)のチェックと整理を行った。また、削除対象書誌に所蔵データを入力している機関に所蔵データの付け替えを依頼した。書誌マスタ整備作業完了後、TOMcat と Kinki Webcat の書誌を統合し、KITOcat の書誌が完成した(図1)。

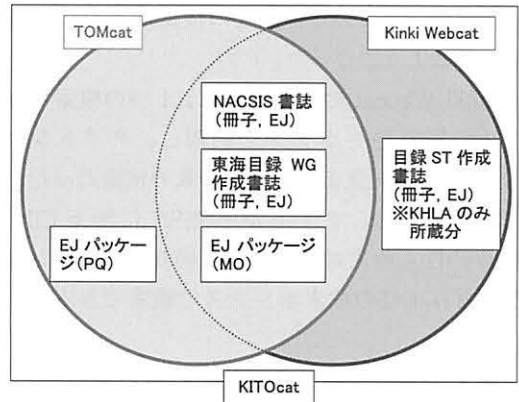


図1 KITOcat 書誌(稼働時)

### 3. 新目録への切り替え

2012年12月に新目録をプレオープンし、2013年1月にユーザー説明会を行った。新目録の本稼働までは旧目録も並行利用できるが、新目録を優先利用してデータ修正も新目録で行うこととし、旧目録から新目録への切り替えを促した。KITOcatの本稼働に伴い、Kinki Webcat は2013年4月12日にクローズした。

## III. Kinki Webcat からの変更点

### 1. 機能

#### (1) ILL

ILL 申込書を PDF で作成するだけでなく、「ILL 申込書メール送信」でシステムから直接メール送信し、ILL 申し込みできるようになっ

た。

KITOCatに参加する図書室ネットワークが複数になることから、ILL サービス対象を設定できるように、所蔵データの公開対象を「所属ネットワーク会員」「全ネットワーク会員」「VISITOR を含む全て」から選択できるようにした。

(2) 雑誌検索

Kinki Webcat では、雑誌の所蔵機関がない時は CiNii Books (<http://ci.nii.ac.jp/books/>)などを別に立ち上げ再検索していたが、KITOCatでは、書誌マスタ項目の CiNii Books ID からのリンクにより CiNii Books の検索結果を直接表示できるようになった。

Kinki Webcat の雑誌検索は、1つの検索ボックスで切り替えボタンを利用し、タイトルかISSNの部分一致または完全一致の検索だったが、KITOCatでは、タイトルとISSNに加え CiNii Books ID も検索対象になり、切り替えボタンはなくなり1つの検索ボックスで検索できるようになった。

電子ジャーナル文献の依頼の増加を踏まえ、検索オプションで電子ジャーナル (EJ) に限定して検索できるようにした。

(3) 機関情報

Kinki Webcat の「会員外受付」「発送方法」の項目がなくなり、KITOCatでは、会員外受付の可否は「所蔵公開対象」と「ILL フラグ」で設定することになった。「ILL 規定」から「制限内容」に項目名を変更し、ILL フラグで「制限あり」を選択した場合に制限内容を記入することにした。

2013年3月開催の病図協総会で、会員名簿は目録システムで管理しているものに一本化することに決まり、KITOCatの機関情報の一部(表3)を変更すると、そのまま会員名簿データも変更されるようになった。

(4) 所蔵情報

Kinki Webcatでは、他機関の所蔵データ一覧を閲覧できたが、KITOCatでは一覧表示はな

表3 KITOCat 機関情報項目

・機関番号	・開館・在室	・FAX 受付
・機関名*	・備考1*	・FAX 送付
・ふりがな*	※施設長名	・現物貸出し
・機関略号*	・備考2	・カラーコピー
・郵便番号*	・所蔵公開対象	・カラー備考
・住所1*	・ILL フラグ	・ILL 備考
・住所2*	・制限内容	・お知らせ
・電話*	・ILL 受付時間	・ILL 受付フラグ
・ファクス*	・ILL 料金	(Email)
・部署*	・ILL 支払方法	・ILL 担当者メー
・担当者*	・ILL 送金先口座	ルアドレス
・電子メール*		・ILL 担当者

\*は会員名簿データに利用

なり、所蔵データ数のみ表示されるようになった。

新たな機能として、所蔵登録時に、各々の所蔵データに公開・非公開の選択や備考登録ができるなど、自機関用目録システムとしての機能が備わった。

2. 規模

KITOCatでは、書誌マスタはシステム統一のものを利用するようになったため、利用できる書誌マスタは15,346タイトル(2014年1月時点、病図協登録6,218タイトル含む)となり、目録・ILLシステムとしての規模の大きさ、広がりを感じられるシステムになった。

病図協の総合目録の登録タイトル数は、登録機関数の増加とEJ書誌の登録により、増加を続けている(図2)。2010年5月にメディカルオンラインの所蔵データの一括登録を行い、2010年

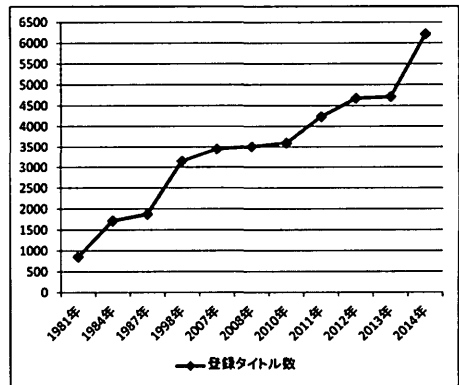


図2 総合目録登録タイトル数の推移

12月より電子ジャーナルの書誌マスタの登録を開始した。KITOcatに移行後も、EJパッケージのClinical Key、ProQuestの登録を行っており、今後もILL利用可能なEJの登録を進めていく。

#### IV. 今後について

KITOcatは、各会員の機関情報や所蔵データの更新により利便性のある充実した総合目録・ILLシステムに繋がるため、会員の皆さまには、自機関のKITOcatデータの定期的な更新をお願いしたい。目録サポートチームの活動としては、KITOcatではシステムの独自変更が難しくなったが、総合目録・ILLシステムとしての利用・活用の向上を目指し、利用方法のマニュアル作成や広報活動を活発化させていきたいと考えて

いる。

#### 参考文献

- 1) 加島民子：雑誌総合目録作成のあゆみ. 病院図書室. 1989; 10: 75-8.
- 2) 小田中徹也：協議会活動—15周年から20周年まで. 病院図書室. 1994; 14 (4): 175-7.
- 3) 山室真知子：目録編集部5年間の記録. 病院図書館. 2000; 20 (4): 184.
- 4) 春日井泉江：目録サポートチーム. 病院図書館. 2010; 30 (4): 203.
- 5) 春日井泉江. 近畿病院図書室協議会～Kinki WebcatからKITOcatへ～. [引用 2014-05-01]. <http://hdl.handle.net/10271/2711>
- 6) 坪内政義. KITOcat—東海目録(TOMcat)からの変遷. [引用 2014-05-01]. <http://hdl.handle.net/10271/2710>